

どらりあんぐる菅生

<http://sugao-ky.hp.infoseek.co.jp>

E-mail: toraianguru@mx81.tiki.ne.jp

公開学習会

地域と学校が動き出す

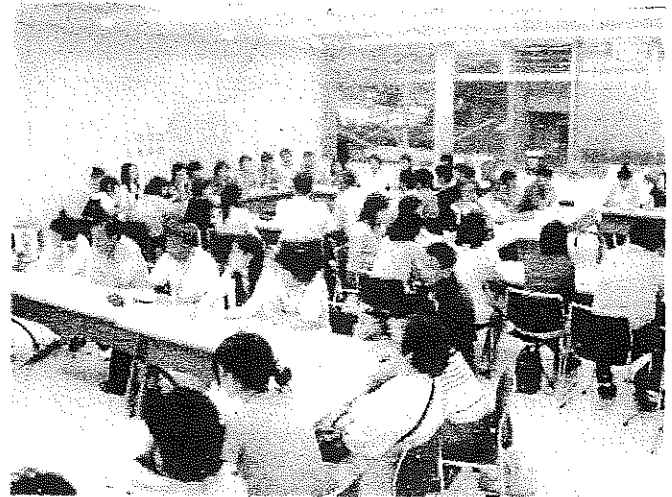
日時 8月29日(水)15:00~18:00
会場 セシサ川崎菅生支店
主催 生涯学習委員会

生涯学習委員会では、これまで教科書問題、学力問題の学習などを経て16年度から独自に菅生地区の小中3校に働きかけ、授業見学を実施、子どもや保護者を対象としたアンケートによる外部評価へとつなげてきました。今回は、より質の高い教育をめざすための一環として、学校・保護者・地域によるテーマ別の大討論会を行いました。

本質にふれる意見交換ができた！ 学校と地域で出し合うアイデアで文化の創造を！

参加者71人のうち教員が最も多く3校合わせて46人、保護者は12人、その他は地域教育会議メンバーでした。「協働」「評価」「部活」の3つのテーマ別分科会に分かれ、約2時間にわたり真剣な話し合いを展開、そののち分科会で話し合われた内容を全体会で発表し、参加者全員が問題や課題を共有しました。

参加した保護者は「学校ではなかなか話せないテーマ。意見も言え、先生の話をしつくり聞くことができた」、また小学校の教員は「ふだん聞けない保護者の声が聞けた」と話していました。菅生小の高橋校長は「地域の問題を肌で感じてもらいたい」と研修という形で全教員に参加を呼びかけました。三ツ橋神原小校長は「大勢で話し合う機会が持ててよかった」、菅生中の金井校長からは「本質に触れる内容の意見交換ができたのはすばらしい。地域教育会議の運営委員会でも、このような議論ができる場となるといい」と、いずれも積極的な感想を述べていました。会を主催し



た生涯学習委員会の工藤委員長は「学校と地域がアイデアを出し合い、菅生の文化の一つをつくることができたらしい」と抱負を話していました。(2面、3面に分科会のおもな内容を掲載しました。)

菅生音楽祭

♪今年も あたのしみに!♪

日時: 12月15日(土) 10時から

場所: 菅生中学校 体育館

主催: 地域教育学習委員会

* 豚汁の販売、災害米の試食もあります。



昨年度の「音楽祭」から

演 目	
1.	空手見本
2.	ワクワク ジャズダンス
3.	南菅生保育園
4.	菅生小学校 音楽クラブ
5.	神原小学校 音楽クラブ
6.	シャッツ・プロジェクト(マリンバ)
7.	親米会(民謡踊り)
8.	菅生中学校 吹奏楽部
9.	蔵敷子ども太鼓連

「協働」分科会

地域と学校が
パートナーシップを組むための課題と解決法

3校の校長・教頭をはじめとする多数の教職員が参加。学校と地域がパートナーシップを持ち、学校や地域の問題や課題をすり合わせ、協働しながら解決に向けていくという点で、共通認識を持つことができ、画期的な話し合いの場になりました。その他、主催の工藤委員長は民間の副校長を登用したいと発言。菅生中の子どもたちの「落書き戦隊ケスンジャー」の活動や、学校図書ボランティア、宮前市民館運営審議会の学社融合の取り組みについても報告がありました。

おもな意見のやりとり

- いま、学校もお店と同じ対価が求められている。より質の高い教員、質の高い教育が望まれている。（地域）
- 地域は納税者として学校に要望するのは理解できるが、マーケティングの原理をそのまま学校に持ち込むのはどうか。教育の成果というのはどの段階で判断するのか難しい。（校長）
- 子どもが楽しく勉強できているかが一つの判断になるのでは。（地域）
- 学校でのさまざまな決定事項は職員会議で決めて結果だけ知らされるが、保護者としては不安。結果が出た過程など説明が必要では。（保護者）
- 子どものことを真剣に考えているのは、学校も地域も同じ。決定事項をきちんと説明することが必要。（教員）
- 市場原理を持ち込むと、低学力、ハンディのある子どもが置き去りになるのではないか。（教員）
- 学校は地域の一員と位置づけられている。具体的な結果を出していくには、保護者や地域の声をよく聞いて方針を出していくことが大事。お手伝いは協働ではない。（校長）
- 「協働」は、一方が決めて他方が協力することではなく、学校と地域が問題・課題を共有し、解決に向けて智慧と力を合わせること。また、学校はもっと情報公開し、学校の持つ困難さを保護者や地域に理解してもらうことにより協働も進むのではないか。（地域）

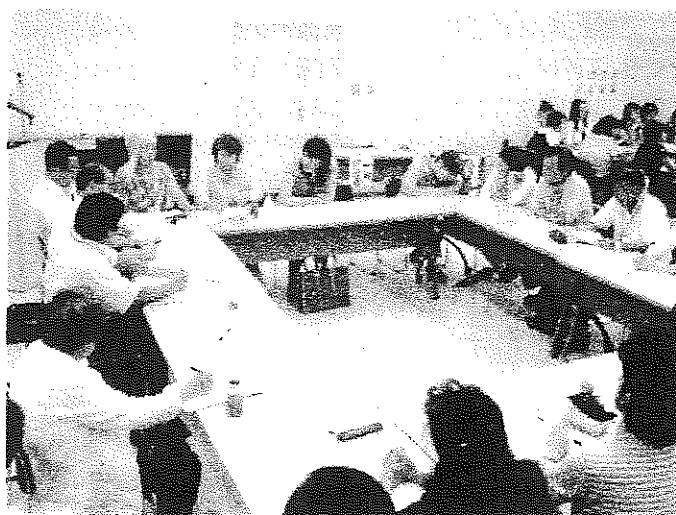
「評価」分科会

保護者がわかる
参画したくなる説明表現を探す

「学校評価」について菅生中の尾形教諭から説明があり、菅生中ではすでに8年前から「内部評価」を実施、学校教育推進会議による外部評価も実施しているとのことでした。保護者や地域への情報公開の遅れが反省点としてあげられています。

子どもたちの学習活動に対する「評価・評定」については、相対評価から絶対評価に変わり、小学校では「O」、または「おおむね達成している」、中学校では「B評価」、または「評定3」が規準値。小学校では「◎」でなくても「O」がとればいい、中学校では「A」でなくても「B」まで達していればいいということになっています。ところが、保護者や子どもたちはこの評価では満足しておらず、特に中学の「B評価」では希望の高校へ進学するのは難しいなど現実とは大きなズレがあることが問題となっています。

評価の際、点数、提出物、作品など目に見える部分以外は、「おとなしい」、「積極的でない」という性格上の因子が影響しているのではないかなど、保護者は疑心暗鬼になりがち。こうした誤解や教員と保護者の認識のズレを解消するためにも、学校、子ども、保護者が納得できるような評価、評定のシステムづくりが今後の課題としてあげられました。



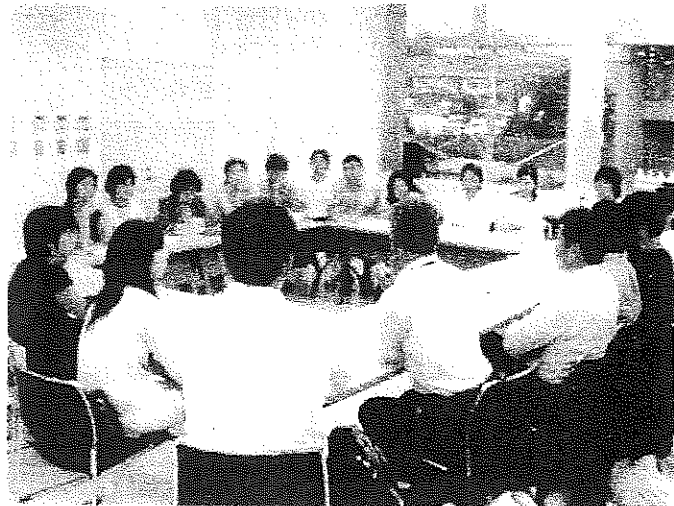
「部活」分科会

地域と学校が
パートナーシップを組むための課題と解決法

テニス、サッカー、野球、バレーの各顧問教諭が、部活動を行うメリットや各部の活動状況、現状について説明。保護者からの「土日も部活があり、子どもの健康が心配」、「土日は趣味の時間を持たせたい」、「土日のどちらかを休みにできないか」などの意見に対し、

他校との練習試合や大会のため土日両日の活動が多いこと、テニス、野球部にとっては校庭が狭く、遠征して行くことが多いとの説明がありました。「部活内のトラブルを相談できる窓口がほしい」、「技量の高いコーチを配してほしい」などに対しては、「学校の部活だけが選択肢ではなく、学外での選択も可能。部活の目的は、プロを育てることではなく、授業とは違う場で努力の仕方を身につけたり、異年齢間の交流、社会生活の基礎を学ぶ場でもある」と、ここで学校の意図と保護者の認識には大きな隔たりがあることがあらためて明らかになりました。中学校の日比野教諭は「保護者に対する説明不足を痛感した。各部ともこのような話し合いの機会が必要だと思う」と感想を述べていました。こうした保護者の期待と不安の入り混じった質問や意見に答える形で会が進み、部活の今後のあり方や地域との連携については今後の課題ということになりました。発言チャンスがなかった小学校教員からは「なぜ、もっと前に中学校内で話し合えなかったのか。ほかの話も聞きたかった」「中学校教員の忙しい実情が分かった」という感想がありました。

保護者にとっては、ふだん気になっていても声に出



出す機会はありません。そのような点で、学校も情報提供の必要性を感じとった貴重な場であったと思います。今後、問題点などを解決できるシステムづくりなどに向けた話し合いが持たれることが期待されます。



子どもたちのウォールアートに拍手!!

浄水場通りの大壁画完成

2007年9月8日(土)、浄水場通りの高さ3m、長さ120mの大壁画「ウォールアート」が完成!

制作には、区子ども会連合会の小学生、OBのジュニアリーダー、シニアリーダー、そして連合会の役員の方など約200人が参加。関係者が、およそ1ヶ月かけて完成させた。8月という猛暑の中での作業は過酷だったが、みんなの力を合わせることで素晴らしいできばえとなった。

指導に当たったのは、菅生中学校の金井校長。テーマは、「夢と生物」。51個の丸い小宇宙(シャボン玉のイメージ)の中に子どもたちの夢の数々、大好きな生き物が描かれている。子どもたちの夢見る思いや、命あるものへの優しい気持ちが生き生きと伝わってくる。

背景は、空・海・川をイメージしており、平瀬川や多摩川が流れている動きのあるイメージ、リズム感をも感じさせ、この背景があることによって壁が全体に統一感を与えている。

金井校長は「低学年から高学年まで幅広い年齢の子どもたちが、それぞれの長所を生かして自由に描くことができた。お母様方の熱心さも印象的だった。」と感心していた。



この道路の壁に、最初に壁画が描かれたのは1994年。川崎市の市制70周年記念事業として、宮前区子ども会連合会の子どもたちによって制作された。それから13年を経過し、劣化が激しくなったこと、今年は宮前区誕生25周年でもあることから、その記念事業の一つとして、区役所と協議の上、新たな壁画を制作したとのことだ。

最初の壁画に小学生でかかわった人たちは、すでに成人に達している。そのときの苦勞を思い出して「さみしいような、残念・・・」との声も聞こえてくる。当初は修復も考えたが、費用がかかりすぎるということで、今回の取り組みとなったとのことだ。最初の壁画は、残念ながら消えてしまったが、13年間も道行く人を和ませた実績は消えることはない。

そして、今回新たに子どもたちの手によって描かれた壁画が、いつまでも幾多の人を和ませてくれることを期待したい。

「有料老人ホーム建設」その後

「とらいあんぐる42号」でお伝えした、フコク生命グランド跡地の老人ホーム建設について、現状をお知らせします。

42号では、「工事が始まると、菅生こども文化センター前の狭い道路を、2分に1台、つまりほとんどひっきりなしに大型トラックが通ることになるが、子どもたちの安全は確保できるのか？ 住民として対応を考えねばならないのではないかと」といことをお伝えしました。

その後、6月23日に菅生こども文化センターで、事業者側の(株)ヘルスケア・ジャパンにより住民側41名参加のもと、工事説明会が行われました。ここでは、前回4月21日説明会までに出していた質問・調査依頼項目への回答が示され、さらに当日の質問にも回答されていました。しかし、工事業者も未定、川崎市の道路拡幅計画もなんら進展のない状態であり、この日はなにも具体的な答えは出ないままに終わってしまいました。

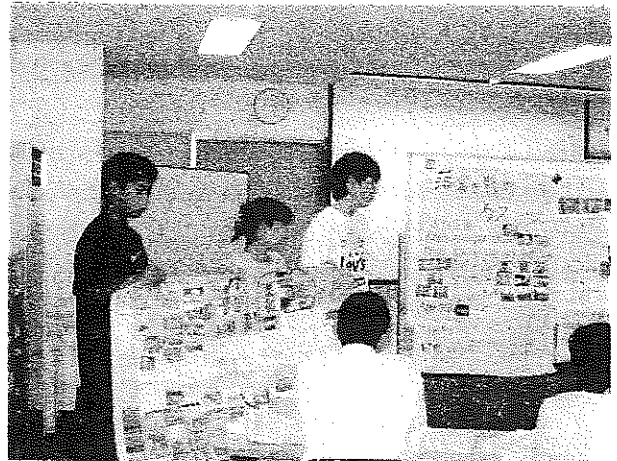
もし工事が始まれば、菅生のまちを、そして通学路を、日に何百台という大型トラックが走り回るのは事実で、すぐに影響を受けるのは我々地域住民、危険にさらされるのは子どもたちです。そこで、9月25日に行われた地域教育会議の運営委員会では、菅生中の金井校長・菅生小の高橋校長・稗原小の三ツ橋校長や、稗原団地自治会の板津会長とともに、「今後は学校や保護者・地域住民が連携し、地域や子どもたちの安全のために、川崎市に対しても強く働きかけをしていく」ということを申し合わせました。

菅生中の生徒、やったネ！

「落書き戦隊ケスンジャー」が、区の課題解決事業として委託されました。菅生中学校の生徒が中心となって、タコ公園などに描かれた“悪質な落書き”を消し、幼児でも安心して遊べるように工夫してきた活動が評価されたのです。

宮前区地域教育会議も、落書きを見過ごす所は“無関心”で危険な場所の一つとして「地域安心・安全マップ作り」(18年度実施)に取り組んできました。

この他にもケスンジャーは、菅生こども文化センターの赤い屋根を塗り直すなど、幅広い活動をしてきました。また、7月16日、区役所での大人に負けない見事なプレゼンテーションに、大きな拍手が起きました。願わくば、ケスンジャーの出番がなくなるまちに一日も早くしてきたいものです。



プレゼンテーション風景

「試してみよう 手づくり映画」

【第1回 みやまえ映像コンクール】
の募集が始まります!!

中学生の出番!! 2007.11.5~2008.1.22



「中学生が好きな、このまち宮前」をテーマに、1本5分以内のビデオ作品・DVD作品等を募集します。親子・先生・友だち等のグループ参加も歓迎です。例えば、「私が好きなおしいちゃんがいる、このまち宮前」でもOK!

このコンクールの特徴は、製作過程でもプロの映画人が相談にのってくれるところです。

詳しくは、チラシやポスター(学校・町内会・こども文化センター・区役所など)を見てください。

蔵敷こども文化センター

のまつりに協力

地域教育学習委員会

夏休みもあわずかとなった8月25日(土)、蔵敷こども文化センター夏まつりに、地域教育学習委員会はジュースのお店を出しました。記録的な暑さのなかでジュースは好評。子どもたちののどを潤しました。

また、10月6日(土)の同センター「さんままつり」にも協力しました。

